

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年8月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	パン・菓子製造業	学校給食用パン委託業者の返上申し出が出ており、業界の先行きが懸念される。
	調味材料製造業	醤油の出荷量は前年同月比大幅に減少となった。3ヶ月連続の減少であり、先行きが懸念される。
	パン・菓子製造業	お盆の売上は期待外れであった。
繊維・同製品	その他の織物業	昨年との比較をすると、減少の幅が小さくなってきている。受注に関してもコンスタントな受注は無く、スポット的な短納期・小ロット製品の受注が増えている。繊維業界の構造改革推進が言われ数年経つが、未だに流通経路に変化はない。
	織物業	先月と同様で厳しい状況が続いている。
	ねん糸製造業	今日特に環境問題が重視され全ての分野でクローズアップされている。自動車産業も素材を重視する傾向が見られる。消費指向が天然繊維へと回帰しているようである。またその一方で機能性を求める傾向が一段と強まっているのも事実であり、スポーツやアスレ関係も極めて顕著である。あらゆるスポーツが健康とストレス解消と快適性をもたらす。その他に原油の高騰による合繊原料の高止まりは無視できず、今後の市況等を十分注視する必要がある。あまり国内系が高くつけば海外からの輸入に頼る商社が出てくる懸念もあり、先行きに注意しなければならない。
	その他の織物業	8月度は、昨年同月に比べ18%の売上減となった。7、8月と大幅な売上減少が続いている。市場動向からも9月度にはまだ回復の兆しが見られない。9月中間期は厳しい決算内容とならざるを得ない。
木材・木製品	製材業、木製品製造業	昨年に比べ入荷量は順調である。そのため競り市の開催は計画通り毎週行う事が出来た。
	製材業、木製品製造業	8月度は引き続き資材の高騰が止まらなかった。北洋材、南洋材、米材、北欧材の全てが値上りし、このまま行くと近年経験した事の無い事態も懸念されている。
窯業・土石製品	砕石製造業	8月の組合取扱出荷量は対前年同月比アスファルト合材向け出荷が14.9%増加となったものの、生コン向け出荷が7.0%減少し、全体出荷量で5.1%の減少となった。特に需要量の多い金沢地区への生コン出荷量が4～8月期で前年比9.7%と大きく下回っており、下期に期待しているところである。
	陶磁器・同関連製品製造業	業界内の概況は依然低迷しており、各イベントを通して起爆的なものにしていきたい。
	生コンクリート製造業	8月の県内の生コンクリート出荷量は前年同月比95.3%とマイナスの出荷量となった。地区状況では、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾地区がプラスとなり、南加賀、金沢、能登地区はマイナスで推移した。官公需、民需では官公需は相変わらず厳しく前年同月比81.2%、民需は先月と異なり108.6%とプラスに転じた。生コンクリートの出荷量の先行きは大変厳しく、特に金沢地区の減少が気になるところである。
	粘土かわら製造業	8月の販売高は前年に比べ15%増加した。要因として好天が続き葺替工事が多く出来た、増産体制が整った等が挙げられる。
鉄鋼・金属	一般機械器具製造業	自動車業界に於ける一時的な停滞が気になるが、景況は活況である。
	非鉄金属・同合金圧延業	前月と同様で特に変化は認められない。
	鉄素形材製造業	業況には大きな変化は見られないが、全体的に受注は停滞気味である。特に公共事業関係は厳しい。新規受注引き合いはあるものの、価格、発注量等でマッチングするものが無く苦慮している。
	鉄素形材製造業	景況は依然として順調に推移しているように思われる。昨年来の石油等の高騰による諸経費の増加は全て販売価格に転嫁できず、利益率は低下している。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年8月分)

一般機器	機械、機械器具の製造又は加工修理	粗材や原油の値上がり、人材不足、技術・技能の伝承など様々な問題が生じている。
	繊維機械製造業	機械部品加工は好調が続いている。組合員の生産体制は工作機械等の設備や人員ともに整いつつあり、高水準な生産が可能になってきている。従って各企業はこの好況がいつまで続くのかと一抹の不安はあるものの、一息ついているといったところである。
	プレス、工作機械	中間決算前月でしかもお盆の月でもあったので、前年同月に比べ生産高は減少した。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	公共事業関連業種においては、企業間の格差が著しく現れており、景況も悪化しつつある。
	機械金属、機械器具の製造	建機メーカーの強気が積極的な生産能力増強への投資を呼んでいる。銅地金、ステンレス鋼板など素材価格の高騰が痛い。若干は製品価格へ転嫁出来たが、大半は生産性向上などコスト切下げで対応せざるを得ない状況である。この状況が続けば収益を圧迫する要因となることは明らかである。
その他の製造業	漆器製造業	木製組合カタログの売上は5月以降4ヶ月連続で前年対比増額となっており、一部法人需要も回復しているようである。近代漆器メーカーは一部に昨年対比増額の企業も見られるが、オリジナル商品の少ない小規模メーカーは依然として苦戦している。また、例年5月開催の木製組合の産地見本市は開催月を9月に移して、九谷焼産地とのタイアップでの開催を予定しており、成果が期待されている。

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	ここ数ヶ月で2社が倒産した。和装業界の嵐が落ち着きを取り戻すにはどれほどの日柄が必要であろうか。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高が横ばいとなった。減少が止まったのかどうかかわからないが今後に期待したい。
	一般機械器具卸売業	後半の酷暑からエアコンの売上も持ち直し、8月は乗り切れたようである。しかしながら官公需は相変わらず苦戦続きである。さらに住宅関連の材料の高騰により、電線の価格が3倍に値上りした。
小売業	燃料小売業	年間最大の需要月であるが、7月末の駆け込み仮需要の影響と節約志向で売上は前年比減少した。9月は更に1円程度の値上げがありそうである。
	機械器具小売業	8月に入ってから猛暑続きでルームエアコンを筆頭に、夏物商品の売れ行きが好調に推移し、昨年比110%と増加した。9月以降は地上デジタル放送対応の液晶・PDPテレビの売れ行きに期待したい。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	猛暑が続き、全般的に夏物衣料は前年をクリアした(前年比105.7%)。ただ余りの暑さが続いた影響により、高齢層の客数の減少が目立った。また、例年8月中旬から下旬にかけて秋物商品の陳列を行うのだが躊躇してしまう月であった。
	鮮魚小売業	今年は「うなぎ」の入荷が極端に少なく、希望数量が確保できない状況であった。鮮魚の入荷は安定している様子だが、猛暑が続いて消費者の購買意欲が少なく売上につながらない。よって仕入意欲も落込み、仕入を控える小売商も少なくない。
	他に分類されない その他の小売業	長梅雨の影響が8月前半は前年を下回る売上であったが、旧盆よりお客様も増え、前年より売上を伸ばす事が出来た。
	百貨店・総合スーパー	8月の売上は、予算比91.1%、前年比100.2%と前年並みであった。前半はあまり良くなかったが、お盆頃から前年をクリアする日々が続いた。特にお盆チラシの掲載店舗は売上・買上客数共に前年を上回った。ただ、雑貨関係の買上客数の減少が目立った。
	米穀類小売業	収量も昨年並みで供給は十分である。新米の出回り時期になり、主要品種の「コシヒカリ」の出荷が9月10日過ぎになることから、新米に期待を寄せている。品質と価格に注視したい。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成18年8月分)

非 製 造 業	近江町市場	観光客の増加が見受けられ、飲食関係が盛況となっている。9月はイベントで集客力を高めていきたい。	
	商店街 尾張町商店街	一つの限界が顕れたのだろうか。万全の老舗だと思われた会社が不渡りを出したり、労働組合との調停が悪くて営業をやめたり、後継者がいないからと廃業したり。形に出る様相はいろいろあるものの、結局は長引く不況に根を上げだしてことに他ならない。如何にすれば安定した売上を確保できるか、次々とオープンする大型店舗に消費者の移り気な眼は向き、目の前の価格ばかりが一人歩きしている。商店にとって一番大事なことは売る事ではなく、売った後もお客さんに喜んでもらえるアフターメンテの世界ではないだろうか。よくあるのは、昔どこかの大型店で買った物の修理を依頼してくるケースがあるが、すでにその販売店存在せず、かといって単発物の商品は交換部品がなかったり、あやしげな外国製商品であったり、結局何もしてあげることが出来ないことが多い。すべてがそうだとは言いきれないが、後の事を考えない商売が多すぎる。このままでは「悪貨が良貨を追放する」事態になりかねない。	
	サービス業	旅館、ホテル	昨年は愛知博、自然災害等の影響により観光産業は低調であったが、今年は施設は全体的に良好な状態にある。しかしガソリン等の値上りもあり秋の旅行シーズンに影響するのではと大変心配している。
		旅館、ホテル	旧盆期間とその前後の入込客が8月全体の実績を上げた。しかし、全体としての景況はまだまだという感じである。
		自動車整備業	継続検査実績車両数は、前年同月比4.0%減、前月比19.0%減となった。新規検査状況は、前年同月比1.0%減、前月比25.0%減となった。
		旅館、ホテル	全体的には増加していると思われるが、消費額は停滞しており、景気回復の実感が無い。
	建設業	一般土木建築工事業	建設工事の受注高は前年同月比4.2%減となった。内訳は民間土木7.1%増、民間建築9.4%増となり、民間全体では9.2%増となった。公共土木は10.3%減、公共建築は42.2%減となり公共全体では18.1%減となった。最近建築に関しては石綿関係の工事が出てきている。
		一般土木建築工事業	公共事業の工事量の大幅な減少に伴い、工事のダンピング受注による企業収益の悪化が目立ってきている。一方、民間工事は若干上昇気味と言われているが、採算面(収益性)では非常に厳しい状況である。また原油価格の高騰によるアスファルト等、資材の仕入単価の上昇が景況悪化をもたらしていると思われる。
		板金・金物工事業	旧盆を境に仕事が減少しつつある。非鉄金属の価格が2倍に高騰している。組合員の受注形態が問屋、ハウスメーカータイプの発注型と従来の工務店、大工、個人よりの受注型の二極化が進んでいる。
		管工事業	前年に比べ、ガス供給工事件数、給水装置工事件数共に増加している。要因として給水装置工事基準の改正に伴う影響や土地区画整備工事等の影響によるものと考えられる。
運輸業	一般乗用旅客自動車運送業	夏休みが終わり秋の行楽シーズンを迎えているが、県内への観光客の入込みは思ったほど期待できない事に加え、近年の急激なタクシー増車が影響して各社の輸送実績は依然として前年度を下回る低落傾向にあり歯止めがかかっていない。こうした現況打開のためには、事業の効率化と顧客サービスの向上による他社との差別化が有力な決め手になると考えられており、県内においても高度な機能を発揮できるデジタル方式タクシー無線の導入がいよいよ始まろうとしている。	
	一般貨物自動車運送業	軽油価格が昨年比2割アップした。長距離輸送の条件は特に悪い。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等